

薬局の後発品割合が上昇 体制加算見直しなどで75%に

政府が推進する2020年の後発品数量シェア80%の目標に向け、薬局での後発品使用割合が上昇している。厚生労働省が示した18年度診療報酬改定の検証調査結果では、薬局の平均使用割合が6.6ポイント増の74.9%となった。18年度改定で「後発品使用体制加算」の算定要件を見直し、算定可能となる使用割合の下限を75%以上に引き上げたことなどが影響したと見られる。また、使用割合75%以上の薬局は26.3ポイント増の59.2%となった。後発

品調剤に対応するため、薬局の備蓄品目数も増えたが、厚労省は「加算要件を厳しくした効果が出た。薬局が頑張ってくれた」と評価した。

調査は、保険薬局1500施設、診療所1500施設、病院1000施設を対象に昨年10月に実施した。

18年度改定では、後発品調剤体制加算をこれまでの加算1(65%以上、18点)、加算2(75%以上・22点)の2区分から、加算1(75%以上、18点)、加算2(80%以上、22点)、加算3(85%以上、26点)の3区分に変更し、底上げを図った。

その結果、後発品の平均使用割合をみると、改定後の18年7～9月で加算1の「75%以上80%未満」が19.1%、加算2の「80%以上85%未満」が18.3%、加算3の「85%以上」が16.7%で、改定前の同時期に比べ、それぞれ3.1ポイント、6.3ポイント、12.9ポイント高かった。

一般名処方の品目数割合も増えた。18年度改定では一般名処方加

ニュースダイジェスト

算に関し、後発品がある全品目で一般名処方されている場合の「加算1」を3点から6点、1品目でも一般名処方がある場合の「加算2」を2点から4点に倍増した。

その結果、18年9月7～13日までの1週間に一般名で処方された品目数の割合は、前年から8.4ポイント増の43.3%に増えた。また、先発品名で処方された品目のうち、後発品への「変更不可」となっている品目数の割合は前回調査から2ポイント減の6.1%となり、後発品名で処方された品目のうち、後発品への「変更不可」とされた品目数の割合も0.6%に減少した。

後発品の備蓄品目数は、平均

329.7品目(17年6月)から平均363.2品目(18年10月)に増加。その大部分を内服薬が占めた。

後発品の廃棄額(18年4～6月の1カ月分)は、平均4304円に増えており、17年度の平均3389円と比べると27.0%の増加率となった。

また、後発品を積極的に調剤していない、調剤しにくい医薬品の種類として回答があったもののうち、最も多かったのは「精神神経用剤」(25.0%)で、次いで「抗不安剤」(21.8%)、「催眠鎮静剤」(21.4%)、「抗悪性腫瘍剤」(19.9%)、「免疫抑制剤」(14.9%)、「抗てんかん剤」(14.7%)と続いた。

前回は「ビタミンDの服用で呼吸器感染症の発症が3割ほど予防できるかもしれない」という論文結果を取り上げ、その解釈を巡るお話をしました。実際に薬を服用する立場で考えてみると、薬の効果に抱く価値観は人それぞれで異なることが分かります。たとえば予防効果が9割だったとしても、年に1回引くか引かないか程度のかぜのために、ビタミンDを服用する価値はほとんどないと思う人も少なくないわけです。

さて、前回の論文は「予防効果」を検討した研究でしたが、予防ではなく実際にかぜを引いてしまった状況を想像してみてください。つらい感冒症状に対して、多くの人が「少しでも症状を緩和させたい」「なんとか早く治したい」と思うはずです。

実は、風邪薬に配合されている抗ヒスタミン薬やアセトアミノフェンの症状緩和効果はごくわずかなものでしかないことが示されています(PMID: 26615034、



医療法人徳仁会中野病院薬局
青島 周一

これから「薬」の話をしよう

薬剤効果に対する時間割引

23818046)。とはいえ、たとえ小さな効果であっても、風邪薬を飲みたいと思うのが一般的な心理かもしれません。あるいはインフルエンザに罹った時を思い出してみてください。症状の持続を半日～1日程度短縮させるだけの抗インフルエンザ薬の効果(PMID: 24718923)に大きな期待を抱いていることも多いでしょう。

つまり人間には、疾病の発症リスクを3割ほど低下させるという予防的な効果よりも、ごくわずかな症状緩和効果を重視しやすい傾向があるということです。これはまた、将来起こり得ることよりも、今この瞬間に起こっていることを重視するというに他なりません。

こうした価値観の形成には、時間割引(time discounting)という人間の心理傾向が影響しているものと考えられます。

時間割引とは、報酬が手に入る時点が今からどれくらい先かによって、その報酬の価値を割り引く傾向のことです。例えば、今すぐに1万円もらえるのと、1年後に1万0100円もらえるのでは、どちらを選ぶでしょうか。多くの人が前者を選択すると思いますが、これはつまり1年間で100円分の価値を割り引いているということです。

この「報酬」を「効果」に置き換えてみたらどうでしょう。例えば、ワクチンによる将来的な疾病予防効果よりも、今現在起こりうる副反応リスクを重視してしまう、あるいはベンゾジアゼピン系薬剤の長期服用に伴う有害事象リスクよりも、今現在の不眠改善効果を重視してしまうというのも、価値の時間割引という心理傾向を踏まえればよく理解できると思います。

薬剤師国家試験対策予備校 メディセレスクール

Medisere SCHOOL

好評発売中 薬剤師国家試験 第104回解説書

メディセレスクール 本部

〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー12F

TEL: 06-6371-7711

メディセレ 検索

HP <http://www.medisere.co.jp>

TWITTER <http://twitter.com/Medisere>

FACEBOOK <http://www.facebook.com/medisere>

演習型解説書

第104回 薬剤師国家試験

正答率・選択肢別解答率も掲載!!

過去問のススメ

Medisere 教育出版